

令和元年度 千葉県高等学校新人サッカー大会 総評

今年度の千葉県高等学校新人サッカー大会はシード校47校に各ブロックの予選を勝ち抜いた49校を加えた96校のトーナメント方式で行われた。

新人戦は新チームになり、初めてのトーナメント方式の大会である。選手権の敗退時期を含め、3年生が引退した時期によって準備期間の長さに違いはあるが、各チームがコンセプトを大切にしてい大会に臨んでいる。

しかし、当然ながら多くのチームが発展途上であるため、まだまだプレーの質や強度に改善の余地があるゲームが多く、得点もミスによるものやセットプレーによるものが多かった。

今大会を通し、どの会場でも攻撃では、ビルドアップを行うチームにおいて、自陣での不用意なミスからピンチを招く、失点をするというチームが多く見られた。GKを含めたビルドアップにおける、止める・蹴るといった基本的な個人技術や全体の距離感を含めた判断が今後への課題である。また、判断なくロングボールを放り込み、相手ボールにしてしまうシーンも多く見られた。課題がある反面、勝ち上がったチームでは攻撃において個人で優位性を出せる選手がおりその選手を中心に攻撃を組み立てるチームが多かった。セットプレーにおいても質の高いキッカーや変化をつけてゴールを奪おうとするなど、セットプレーを有効な攻撃手段としているチームが勝ち上がった傾向にある。

守備ではセットプレーで簡単にマークを外してしまったり、スピードのある選手に突破を許してしまったりと守備における個人戦術に課題が見えた。

その中でもベスト8に進出したチームは個々の能力が高く、基本的な技術の高さや個でボールを奪いきるといった部分に加え、しっかりとしたチームコンセプトをベースにした戦いを80分間継続してできるチームが多かった。

習志野、専修大松戸、八千代、日体大柏、暁星国際、敬愛学園、千葉明德、中央学院がベスト8に進出したが内容では拮抗したゲームも多く、5月に行われる関東大会千葉県予選での戦いが楽しみである。4月から新入生を加え、各チームが今大会で出た課題の改善やストロングポイントをどう伸ばしていくのか、それぞれのチームによる強化・育成に期待したい。

今年度は1回戦が悪天候の中での実施となったが、日程変更もなく無事終了することができた。会場役員・審判の方々を始め、大会運営にご協力頂いた全ての方々に感謝の意を表すとともに、千葉県高校サッカーの発展を祈念し総評とさせていただきます。

千葉県立薬園台高等学校
平塚 智